

<レポート>

傾聴ボランティア養成講座「まとめ」を担当して

藤土 圭三 (広島文教女子大学名誉教授)

筆者はJR西日本あんしん社会財団助成事業「傾聴ボランティア養成セミナー」講座の第7講「まとめ」の講師を担当した。私はこれまでの講座のまとめとして受講生の方々にロールプレイ技法を紹介して、傾聴技法を導入した創作劇・ロールプレイを実施した。受講生にロールプレイ参加へのボランティアを募集したところ、2名の方から参加希望をえて、次のようなロールプレイを実施した。

希望者妻役A氏は中年女性で凛とした雰囲気のある方であったが、思っていることがあるので傾聴してほしいと言う思いがあったとのこと。隣に着席されていた男性B氏にA氏の夫として参加して頂けないかと要請したところ心よく承諾をいただいた。夫役B氏はたまたまA氏の隣に座っていたと言う意味ある偶然であった。ロールプレイは打ち合わせなしで、言いたいこと、心に浮かぶことで実施するようお願いした。2人とも受講生であるから傾聴技法については十分に学習された方でしたのであえて打ち合わせなしでロールプレイを実施し、傾聴ボランティア役は筆者が担当した。

筆者が傾聴ロールプレイを提案したについては、これまでの6講までの講座の多くは傾聴に関する理論・技法についての講座が中心に実施されたが、講座内容が傾聴とその技法に注目した講義だったので、残された問題は傾聴技法実践の紹介であると感じたからである。約10分程度のロールプレイを実施して録画し、放映し受講生の方々の意見やコメントを聞いて、筆者が傾聴技法の意味と役割について実践内容を放映しつつ説明し検討した。

撮影機をセットしマイクを用意して机を挟んで、妻役のA氏と夫役のB氏は並んで椅子に掛け、傾聴役の筆者は机の向かい側の妻A氏に近く斜傾対面で椅子に掛けた。

傾聴ボランティア1: 今日は傾聴ボランティアです。よろしくお願ひします。何かお話ししたいことがあると、お聴きしましたので私がお役に立てますかどうか?お伺ひしました。

妻A氏2: そうです。私は最近わが子を医師から殺されました。本当に殺された感じがす・・・(感情表出が激しく、言葉が涙に代わる。夫B氏も無然とした感じで、黙っている・・・)

傾聴ボランティア3: そうですか!それは大変でした!・・・(沈黙)
⇒傾聴+共感対応・ここでは言葉だけではなく傾聴ボランティアの対応の態度、眼差しなどが機能する。

- 妻 A 氏 4 : 中核病院の小児科に入院治療中だったのですが、わが子の病状が好ましくないのに、主治医が予定の家族旅行でバカンスに行ってしまうのです。医師がこんなことしていいのでしょうか？
⇒妻 A 氏は思いの丈を…不満を精一杯訴える。
- 傾聴ボランティア 5 : そうですか！親御様としては担当の医師が同僚の医師に代診を依頼して予定のバカンスに行かれることに強い不信感を感じられた！
⇒傾聴＋共感対応
- 妻 A 氏 6 : そうです。貴方はそうは思いませんか！もう訴えたいのです。弁護士に相談したいと夫にも協力を求めるのですが・・・夫は本気で協力してくれないのです。夫に向かって・・・そうでしょう！
⇒医師への不満に誘発される形で夫への日常性に強い不満を表明し、同情を得ようとする。
- 夫 B 氏 7 : 小さい声で、うん～・・・
- 妻 A 氏 8 : 夫は何時もこれなのです。はっきりしないのです。家のことはほっといて町内のことや仕事のことにはばかり夢中で、私の心配など気にもしないのです。家のことには取り合ってくれないのです。
- 傾聴ボランティア 9 : 奥様はあのようにおっしゃっていますが、ご主人様も言いたいことがあるのではないですか？
⇒夫の言い分があるのかも知れないと感じて水を向けると・・・
- 夫 B 氏 10 : 妻が何でも自分でやりたいほうで、私がどうすればいいか、どう協力すればいいのか、分からないところもあります。
- 傾聴ボランティア 11 : ご主人から見たら、相談ではなくてああしてほしい、こうしてくださいと・・・
⇒傾聴結果を確認する。
- 夫 B 氏 12 : そうです！そうです。家のことは全部妻ですから・・・妻の思い通りでないと・・・これまで・・・ずーっとそれでやって来てたたものですから・・・
⇒日常の夫婦の関係性の問題を明確化する。
- 妻 A 氏 13 : 夫は何も言わないで、外のことに逃げているのですから・・・

初めは医療の問題を糾弾したいと憤っていた妻 A 氏の気持ちが無時間にか夫婦関係の日常の不満に変化しました。ここで傾聴ボランティアは医療不信についての訴訟から、夫婦関係の日常についての不満に変わり、夫婦関係の日常性とマンネリ化が蔓延しがちな関係が妻 A 氏の心の変遷の意識化を促したものと考えます。傾聴ボランティアの面接の運営の力量によって、夫婦関係の微妙な心理状況を意識化されたロールプレイです。ロールプレイの初めは医療不信であったが傾聴技法により、夫婦関係の在り方についての意識化されて、夫婦関係の再調整が行われ夫婦関係の再調整が進行することになった。ここでの傾聴は医療不信から提訴まで口にされた妻役の A 氏の心に提訴の前に夫婦関係のマンネリ化と日常性の再調整の必要に築かれる働きをしたことになった。

本講座では大変な被災を受けられた被害者への心の回復の一助（メンタルヘルス）として傾聴技法の活用を目的としているが、傾聴技法には利用者の心性に巣くって習慣化し、無自覚な心性にも触れることがあることをロールプレイで実践してお示した。

傾聴ボランティアを実践の興味、関心のある方は、傾聴技法の活用には2側面があることを伝えたい。その第一は被災者の心の安らぎ場所としての関係性を形成するための技法として働きと、第二の傾聴技法は利用者の心性の深淵に無自覚的に習慣化しているわだかまりや、積年の無自覚的怨念などにも注目できるようになり、利用者の心性の再編成のための心理治療的關係性形成のための技法でもあります。先のロールプレイは偶然にも子供の死から主治医への医療不信から控訴したいと息巻いていた妻の奥深い心性には夫への日常性と習慣化から来るマンネリ化している夫婦関係の危機を発見したロールプレイでもありました。上手なロールプレイを演じて頂いた A 氏と B 氏に対して、心よりお礼申し上げます。

訴訟したいと息巻いて、弁護士に相談したいといきまして妻役の A 氏が A 氏の心に潜んでいた夫婦関係の不満が刺激されて、夫婦関係の日常性の問題に注目されて、夫婦関係の調整にかかられたロールプレイでした。10年から15年と継続された夫婦関係の中に潜在化していた夫婦関係の鬱積を意識化し、考え直すきっかけを提案して頂いたものと思いました。

※ ロールプレイングを実践していただいた A 氏と B 氏には掲載の承認を得ております。

藤土 圭三 (ふじと・けいぞう)

広島大学大学院教育学研究科教育心理学専攻修士課程修了。宮崎県県庁採用：宮崎県中央児童相談所心理判定員、広島県教育委員会：広島県教育研究所指導主事、安田女子大学講師、広島大学総合科学部助教授（保健管理センター勤務）、香川大学教育学部教授、山口大学大学院学校教育研究科教授・附属幼稚園長兼務、広島文教女子大学大学院教育学研究科教授・附属心理教育相談センター長兼務を経て、現在広島文教女子大学名誉教授。